



# 全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 中村達也／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎ (03) 3263-0271  
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>



## 新春あいさつ

新年あけましておめでとございませう。昨年、アベノミクスの効果か、円安も手伝って、日本経済は、回復基調にあるように見えました。私たちが公務員を取り巻く状況は世の中の景気とは裏腹にとっても厳しい状況になりました。民間企業の中でも従業員のベースアップを行った企業には、補助金を支援することなく、政府が景気回復に取り組み姿勢を打ち出しました。しかし、復興支援の財源確保のため、国家公務員の給料を減額したのと同様に、地方公務員の給料も地方交付税の減額という形で実質給料の減額という形になりました。私たちが消防職員は、減額された結果を知らされるだけで、自分たちの給料がどのような形で決められるのかという場所に立ち会うこともできず、一方的に決められています。職場内においても、階級という圧力が権力者を作り、登別の弱いものを支配するという、非民主的な職場環境になっています。私たちが消防職員も労働者です。働くことの意味を問い、働く者の尊厳を守るような活動をしていかなければなりません。そのためには、労働組合の回復がとても重要です。あらゆる方面に働きかけるとともに、消防職員自身が、求めていることの意思表示として、全消協の組織拡大が今までも増して重要です。組織強化と拡大を重点課題として早期に団結の回復がはかられるよう、全国の多くの仲間の全消協への結集をお願いするとともに会員とご家族の皆様のご多幸をお祈りし、年頭の挨拶といたします。

全消協会長 門間 孝一

第44回労働講座を開催

労働講座  
開催報告

# 同じ消防職場なのに違う労働条件 グループワークで課題に向き合う

2013年12月4日・5日の2日間、全消協第44回労働講座を東京都「主婦会館プラザエフ」で開催、全国の単協から70人（うち未組織5人）が参加した。

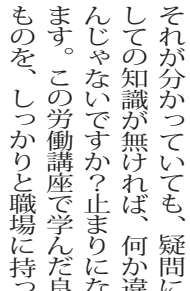
門間会長の主催者挨拶の中で「労働条件は消防学校では教えてくれない。私も以前は知らない中で仕事をしていて、先輩たちにはいいから黙ってやれ!と言われたが、それはいけない事です。それが分かっても、疑問に対しての知識が無ければ、何か違うんじゃないですか?止まりになりません。この労働講座で学んだ良いものを、しっかりと職場に持って

行つて下さい」と述べた。オリエンテーションの後、前回のアンケートを受けて新たな講座、元全消事務局長の中村義彰講師による講座I「消防職員協議会の歴史と展望」を、幹事が講師の講座II「賃金・労働条件」を講義し、参加者は8班に分かれグループワークを行った。

夜は、労働講座で分けたグループ毎にテーブルを囲み、同場所ですぐ食懇親会を開催、グループや全体の交流を深めた。

2日目は、幹事が講師の講座III「組織強化・拡大」、講座IV「労働安全と快適職場づくり」、そして、ユース部と女性連絡会が担当した講座V「男女共同参画」を講義し、全体を通したグループ討論を行った。

最後に、近江副会長が総括として、「2日間という時間の詰まった中で講義でしたが、しっかりと勉強をして新しい知識を覚えていただいた。初対面の会員同士、交流会等を通して腹を割った話もしていただいた。同じ消防職員で



講座Iで講演頂いた中村義彰さん

ありながら1人1人違う条件で働いている仲間と知り合い、お互い情報交換をしながら横の繋がりを築いたことも大切です」と述べ、2日間の講座を締めくくった。

## 各講座紹介

講座I「消防職員協議会の歴史と展望」

消防職場の安全衛生、安全と健康の確保と快適な環境、労働条件の改善について。職場環境の改善例紹介。消防職員のストレス。

常備消防を取り巻く情勢、全国消防職員協議会の旗揚げと活動概要、今後の展望。協議会活動の成果や課題などをグループワーク。

労働条件の改善について。職場環境の改善例紹介。消防職員のストレス。

講座II「賃金・労働条件」

消防職場の労働条件、労働時間、休憩時間、休日とは。具体例を交えて解説。

講座III「組織強化・拡大」

協会の現状と課題、組織強化・拡大への取り組み、次世代への人材育成。組織強化と課題についてグループワーク。

講座IV「労働安全と快適職場づくり」

※講座で使用したパワーポイント、及びグループワークで発表した内容は、全消協ホームページ第44回労働講座開催報告からダウンロードできます。

講座V「男女共同参画」

男女共同参画って何?女性にとつて消防職場は働きやすいか。女性消防職員の採用拡大が進まない理由。男女ともに働きやすい職場とは。P S Iと国際連帯活動



講座Iで講演頂いた中村義彰さん

最後に、近江副会長が総括として、「2日間という時間の詰まった中で講義でしたが、しっかりと勉強をして新しい知識を覚えていただいた。初対面の会員同士、交流会等を通して腹を割った話もしていただいた。同じ消防職員で

ありながら1人1人違う条件で働いている仲間と知り合い、お互い情報交換をしながら横の繋がりを築いたことも大切です」と述べ、2日間の講座を締めくくった。



PSI-JC 報告

# 2013年度男女平等セミナーに参加、消防職場の男女平等参画を考える

PSI-JCは11月15日(土)の二日間、2013年度男女平等セミナーを東京都「TKP市ヶ谷カンファレンスセンター」で開催し、自治労や全水道などPSI-JCに加盟する各組合組織から60人が参加した。全消協からは、白井佳史さん(東海ユース幹事・津市消協)、小崎めぐみさん(四日市消協)、東慈訓さん(近畿ユース幹事・宇陀消協)の3人が参加し、PSI-JCユースネットワーク・女性委員会委員として仲野桂太さん(全消

協特別幹事)が司会進行を務めた。

冒頭の挨拶に続き、「PSIの組織と活動について」と題し、佐藤克彦PSI-JC事務局長より国際労働運動関連組織や2014年PSI活動の優先課題について説明がなされた。その後、「世界の働く女性と人権：虐待・搾取・差別」と題して、アムネスティ・インターナショナル日本事務局長である若林秀樹さんより講演を受けた。講演の内容では、バン格拉デッシュ縫製工場では、ハンダや鉛の汚染による健康被害や人権侵害が問題点や教訓を用いて企業と人権の関係性、人権とは何か?人権を理解するポイント、世界の労働問題のケーススタディなどについて話があった。講演後、質疑討論の時間が設けられ参加者と講師である若林秀樹さんとの間で活発な意見が交わされた。

続いて、参加型公開討論が行われ、「日常に存在する暴力」をテーマに、ファシリテーターの2人、各組合代表よりそれぞれ1人のスピーカーが参加し活発な討論が行われ、一日目が終了した。二日目は一日目の参加型公開討論の内容を参考に、参加者が9グループに分かれてグループ討論が行われた。現状の雇用や労働環境、家庭内における男女平等について、グループごとに個々の職場での問題点や考え方を話し合い、課題解決についてまとめた内容を発表した。最後に澤田陽子PSI-JC女性委員会議長より総括があり「今回のセミナーで学んだ事を参加者がしっかりと発信していき、各組合や職場などで男女平等を訴え、更なる取り組みを進めていくことが必要である」と締めくくり、二日間のセミナーを終了した。

参加された津市消協の白井佳史さんは「仕事や共同生活をしていく上で性別は関係なく、人間性で人と接していくと男女平等に少しは近づけるのではないかと感想を述べた。

今後も全消協はPSI-JCが主催する男女平等セミナーなどのイベントに積極的に参加し、未だ続く「男職場」である消防職場を男女平等の視点から改革していき、男女平等参画社会の実現に向けてPSI-JC加盟組織と共に取り組む。



白井さん(右から1人目)が公開討論のスピーカーとして発言

討論の内容を参考に、参加者が9グループに分かれてグループ討論が行われた。現状の雇用や労働環境、家庭内における男女平等について、グループごとに個々の職場での問題点や考え方を話し合い、課題解決についてまとめた内容を発表した。最後に澤田陽子PSI-JC女性委員会議長より総括があり「今回のセミナーで学んだ事を参加者がしっかりと発信していき、各組合や職場などで男女平等を訴え、更なる取り組みを進めていくことが必要である」と締めくくり、二日間のセミナーを終了した。

参加された津市消協の白井佳史さんは「仕事や共同生活をしていく上で性別は関係なく、人間性で人と接していくと男女平等に少しは近づけるのではないかと感想を述べた。

今後も全消協はPSI-JCが主催する男女平等セミナーなどのイベントに積極的に参加し、未だ続く「男職場」である消防職場を男女平等の視点から改革していき、男女平等参画社会の実現に向けてPSI-JC加盟組織と共に取り組む。

今後も全消協はPSI-JCが主催する男女平等セミナーなどのイベントに積極的に参加し、未だ続く「男職場」である消防職場を男女平等の視点から改革していき、男女平等参画社会の実現に向けてPSI-JC加盟組織と共に取り組む。

PSI アジア太平洋地域 QPS報告

# 日本の消防職員の団結権問題を発表

2013年10月15日から18日にタイ・バンコクにおいて、PSIアジア太平洋地域QPS(質の高い公共サービス)ワークショップが開催され、アジアを中心とした各国より102名が参加し、全消協からは中村達也事務局長、根引ひとみ女性連絡委員会が参加した。

ワークショップはセッション1からセッション14まであり、TPP問題、公正な課税、労働組合権、民営化、女性に対する暴力の撲滅など幅広い議論がなされた。全消協を代表し参加した中村

事務局長は労働組合権のセッションの中で、消防職員の団結権問題を含めた日本の公務員制度改革の現状と課題について発表した。中村事務局長は「日本ではILO 87号条約(結社の自由)を批准しているが消防職員には団結権が付与されていない。アジア諸国では団結権すら批准していない国々が存在する。PSIはこれらの現状をどう捉えるか非常に重要な課題である。また韓国では労働条件が劣悪であり、このような国々と密接に連携し運動していきたい」と発表した。

最終日のセッションの中でPSIアジア太平洋地域書記ラクシュミ氏から総括のプレゼンがあり「アジア太平洋地域における団結権・団体交渉を巡る状況に



中村事務局長

は惨たんたるものがある。消防士緊急事態への対応を任務する労働者、衛生、社会福祉分野に携わる労働者等、洪水、火災、地震等に四六時中備えていなければならない労働者に対する団結権、団体交渉権が認められていない状況である。この状況について従来の組織化への取り組みを見直す必要がある。2014年の労働組合権への取り組みに、これらの問題を取り込んでいくことを提案すること消防職員の団結権問題にも注目しワークショップの総括とした。

またワークショップに参加した全消協女性連絡会の根引さんは「各国の実情や抱える問題と課題、また取り組みについて生の声として聴くことができたことは、とても新鮮であり勉強になった。そして日本から参加した方々

はもろろん、アジア各国からの参加者の方々とコミュニケーションがもてたことは実際に参加したことでも得た経験であり、本当に貴重なものとなった」と感想を述べた。今後、全消協はアジア地域で連携し2008年韓国で発足した「アジア太平洋地域消防・救急ネットワーク」の更なる充実をはかり、先ずは2014年3月に開催されるEASRAC(小地域諮問委員会)で団結権獲得に向けての方策作業を開始し、国際連帯活動の強化を進めていく。



根引さん(左から3人目)も参加した。

はもろろん、アジア各国からの参加者の方々とコミュニケーションがもてたことは実際に参加したことでも得た経験であり、本当に貴重なものとなった」と感想を述べた。今後、全消協はアジア地域で連携し2008年韓国で発足した「アジア太平洋地域消防・救急ネットワーク」の更なる充実をはかり、先ずは2014年3月に開催されるEASRAC(小地域諮問委員会)で団結権獲得に向けての方策作業を開始し、国際連帯活動の強化を進めていく。



大島地区消防行政研究会

住民サービスの向上、意見の言える職場づくりを本気で考え行動します

全消協の皆様こんにちは、私は2013年6月8日に鹿児島県内6番目の単協として全消協の仲間となりました「大島地区消防行政研究会」です。(以下「大島地区消研」)

会員が所属する大島地区消防組合は鹿児島県と沖縄の奄美群島のうち群島北部の奄美大島と加計呂麻島、請島、与路島、それと喜界島の5つの島を管轄し、人口約74000人、管内面積約878平方キロの1市・3町・2村を1本部1署、4分署、1分駐所、1出張所、職員154人で守っています。

組合設立は平成元年、当初は基準財政需要額応分の負担金方式を採用していましたが、職員の配置数や救急艇等の更新に絡んだ構成市町村間の運営負担金の不公平感から組合本部経費を除いた各署所自賄い方式という特殊な負担方式に移行してしまいました。このため構成市町村を越えた職員の異動は無く、人員配置に余裕のない小さな署所では職員の我慢に依存した勤務体制を続けています。

村にある分署・分駐所間での市町村を超えた人事異動実現への協議、消防本部署への構成市町村職員の配置要請協議、その他各会員からの意見を共有し精査、協議していくことをめざし、ミッション(使命)に「住民サービスの向上」・ビジョン(目標)に「意見の言える職場づくり」を掲げ、「我々消防職員が本気で考え本気で行動する必要がある」「今しかないでしょ!」との想いで、11名の賛同者を待って結成しました。

離島のハンデ(講習会及び学習会参加時の多額の旅費負担)の「会員自らの様々なアイデアによる解消」をめざし、また重責を担う役員間では「最低でも3年間は

勉強期間だ!」と意識共有、定期的に各所属への勉強会・交流会を実施し、管理職を含め会員への情報や価値観の共有を進めています。

全国的協議会員の皆様、どうか強力なご協力をよろしくお願います。



有田町消防職員協議会

職場環境の改善を、最高の住民サービスへと繋ぐために団結

初めまして全消協会員の皆さん、2013年6月27日に発足しました有田町消防職員協議会です。

有田町は人口約2万人、有田焼で有名な焼物と農業の町で、1署1本部職員数40人で構成されています。

また、2014年4月には伊万里市消防本部との合併を目前に控えており、非常に困惑した中での業務遂行を行っています。

現在、会員数33名と少ない人数ですが一致団結し皆様と共に頑張っていきたいと考えています。

また、設立から現在まで、様々な学習会等行事に参加し、労働条件等の知識を高め、他単協の方との親睦をはかり、自分達の職場にあった環境作りをめざして活動し、改善に向け提案していきます。

また、「自分たちの力で職場環境を変えていかなければ」と考え、改善しなければならぬ問題を乗り越えた暁には、最高の住民サービスができるであろうと思います。

また、設立から現在まで、様々な学習会等行事に参加し、労働条件等の知識を高め、他単協の方との親睦をはかり、自分達の職場にあった環境作りをめざして活動し、改善に向け提案していきます。

有田町消防職員協議会の設立については、自治体佐賀県本部、県消協、県内各単協の皆様のご指導、御支援のおかげで設立に至りました。

私達の消協立ち上げの動機は、消協未加入消防本部として各消協の色々な行事に参加させて頂くうちに、他の消防本部の職場環境等を初めて知ることができ、今まで当たり前だと思っていた職場環境や待遇面で、他消防本部との違いに気づかされたことでした。「このままではいけない」、「自分たちの力で職場環境を変えていかなければ」と考え、改善しなければならぬ問題を乗り越えた暁には、最高の住民サービスができるであろうと思います。